

令和3年 第1回 北海道議会定例会 予算特別委員会〔知事総括〕開催状況

開催年月日 令和3年3月23日(火)
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員
 答弁者 知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 原発・エネルギー政策について (一) 泊原発をめぐる一連のやらせについて 福島第一原発事故から10年を経て、知事はどのような認識でおられるのか、伺います。また、分科会審議では1999年、2000年のやらせ問題について質問しましたがけれども、2008年、プルサーマル計画をめぐるやらせについて、知事は、ご存じないと思いますけど、どのような認識か、伺います。</p> <p>原発事故に対する認識が非常に浅いというふうに感じました。それでは原発行政を担っていく資格があるのかというふうに、私は疑問に思います。</p> <p>(二) 第三者委員会による行動基準について 2008年のプルサーマル発電に関するやらせ問題を調査した道と北電の第三者委員会の報告では、福島第一原発事故と、やらせを経た原子力行政の再出発の起点だと私は考えております。泊原発をめぐる繰り返された北電のやらせの総括と、やらせに関与した北電と道庁に示された行動基準、および、基本原則にのっとった道職員の職務の遂行について、知事の見解を伺います。</p> <p>(再質問) この結果、報告を真摯に受け止めると答弁された知事ですけれども、知事はこの報告書を読まれましたか。</p> <p>熟読してみてください。これからの道政を担うのであれば、ぜひ熟読していただきたいと思います。</p> <p>(再々質問) 私は、この報告を受けて、知事の姿勢として、今後道は一切このやらせという行為は行わないと断言できるのかどうか確認したいと思います。</p>	<p>(知事) 原発についてでございますが、原発は安全性が確保されることが大前提であり、福島第一原発事故については、重大事故への対策の検討や、地震への総合的なリスク評価が不十分といった課題が明らかになったところでありまして、この教訓に基づき、災害想定を大幅に引き上げた防護対策を事業者に求めるといった新たな規制基準を定めたところでございます。</p> <p>私としては、こうした対策が確実に実行されることはもとより、事業者においては、安全向上や原子力防災対策の充実や強化に不断に取り組んでいくことが何よりも重要であると考えてます。</p> <p>また、プルサーマル計画の検討過程などにおける北電の参加者動員や推進する意見を提出したこと、計画に賛成すると受け取られる道職員の発言などの不適切な行為については、誠に遺憾であり、あってはならないことと考えております。</p> <p>(知事) 適切な道政運営の確保についてであります。平成20年度のプルサーマル計画に係る意見募集に関し、北電の第三者委員会による調査報告書では、シンポジウム等の公正性や透明性を損なうおそれのある行動として、参加者の動員や、質問者への誘導などを不適切な行為とする具体的な行動準則が示され、ガバナンス・コンプライアンスの強化などが求められたところでございます。</p> <p>また、当時の道職員の対応は、道が設置した第三者検証委員会による調査や検証の結果、不適切であるとされ、担当職員に厳重注意するとともに、知事の給料減額などが行われたところでございます。</p> <p>私としては、一連の行為については誠に遺憾であり、この調査・検証の結果を真摯に受け止め、こうした不祥事が決して繰り返されることのないよう、道政の運営に当たるべきものと考えております。</p> <p>(知事) 報告書でございますけれども、真下委員のご質問を頂きまして、この答弁にあたりまして拝見をしたところでございます。</p> <p>(知事) やらせ問題でございますけれども、こうした不祥事が決して繰り返されることがないように、道政運営に当たっていききたい、というふうに考えてます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) プルサーマル発電について 知事の固い決意を聞いたわけですが、では、北電はどうかと言うとですね、北電も会員である電気事業連合会は、2030年度までの利用計画に泊3号機でのプルサーマル発電を明記しました。事前了解の手続きは、2010年に終了したことでございまして、福島第一原発事故と一連の繰り返されたやらせを踏まえて、北電の当時の佐藤佳孝社長は、「今一度立ち止まって、整理したい」とのべ、道議会でもですね、自民党の重鎮議員に原子力部長が答弁をしております。知事、先週ですね、分解会審議の中で北電はこの立場は変わっていないということで、道に説明をしたと答弁しておりますけれども、これに納得されているのでしょうか。</p> <p>(再質問) その指示なんですけれども、北電から回答をもらった19日、同じ日に藤井社長がですね、プルサーマルに取り組むことを記者会見で発表しています。これは道の方は、いつ、どう把握したのか伺います。</p> <p>(再々質問) 私の求めに応じてですね、記者会見の内容を会議録で出たのはですね、週明けです。間違えないようにしていただきたいと思っております。 藤井社長はこの時に、かなりやらせから時間が経過したといっていますけれども、さきほど知事が答弁したように、北電のガバナンス・コンプライアンスを徹底していくことこそ問題であって、そこが解決しない限り、この後ですね、プルサーマルだとか再稼働だとか、そんなことに言及するような資格はないと考えますけど、その徹底を知事はどのように確認しようとされるのでしょうか。</p> <p>(再々々質問) それでは不十分ですよ。きっちり確認しないといけないと思っておりますけど、いかがですか。</p> <p>(再々々々質問) 知事、答弁になってませんよ。ガバナンス・コンプライアンスの徹底をなんで担当部が確認できるんですか。知事がやらなきゃ駄目でしょ。 知事がね、ちゃんと北電を呼んで説明の機会を持つということをごどこかのタイミングでやらなきゃいけないということをお願いいたします。</p>	<p>(知事) 北電の意向でございますけれども、先日の電気事業連合会の発表を受けまして、担当部の方から北電に対して、プルサーマルへの対応について問い合わせたところ、福島第一原発事故以降10年間の原子力を取り巻く情勢変化も踏まえ、「立ち止まって整理というこれまでの方針は変えていない」という回答を得ております。 いずれにいたしましても、泊発電所については、MOX燃料を利用した原子炉の安全性も含め、現在、原子力規制委員会における厳正な審査が継続中であります。予断を持って申し上げる状況にはないわけですが、私といたしましても、担当部に対して、不断に北電から事情を聴取するとともに、状況を注視するように指示をしたところでございます。</p> <p>(知事) 北電への確認でございますけれども、その会見の当日でございます。当日に、電話によりまして、社に対して直接ですね、確認を行ったところでございます。</p> <p>(知事) 確認でございますけれども、泊発電所については、MOX燃料を利用した原子炉の安全性も含めて、現在、規制委による厳正な審査が継続中でございます。 予断を持って申し上げる状況にはないわけですが、私としても、担当部に対して、不断に事情を聴取するとともにですね、状況を注視するようにしっかりと指示をしまいたいと思っております。</p> <p>(知事) 確認でございますけれども、担当部に対して、不断に事情を聴取するとともに、状況を注視するように指示をしまいたします。</p> <p>(知事) 繰り返して恐縮でございますけれども、不断に事情を聴取するとともに、状況を注視するようにしっかりと指示をしまいたします。</p>